池ノ下遺跡
川津井手の上遺跡

―― 国道・県道改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 ――

平成9年3月

香川県埋蔵文化財研究会

池ノ下遺跡

例　言

1．本書は県道飯野宇多津線道路改良工事に伴う埋蔵文化財の発掘調査概要報告書である。

2．本遺跡は丸亀市飯野町に所在する。

3．調査は香川県土木部道路建設課より依頼を受け、香川県教育委員会が実施した。

4．調査は文化行政課文化財専門員木下晴一が担当した。

5．本書挿図中のレベル高はすべて海抜、方位は国土座標第Ⅳ系の北を示す。

6．挿図の一部に建設省国土地理院発行の50,000分の１地形図「丸亀」及び5,000分の１国土基本図を使用した。

7．発掘調査、整理作業を通じて香川県善通寺土木事務所、丸亀市教育委員会、（財）香川県埋蔵文化財調査センター、丸亀市飯野土地改良区、土器川右岸連合土地改良区、その他関係各位より多大な御協力、御援助を得た。（順不同）

8．本書の執筆、編集は木下が行った。

9．出土遺物は香川県教育委員会が保管し、坂出市府中町南谷5001-4　香川県埋蔵文化財センターに収蔵している。

目　次

第１章　調査に至る経緯と経過 ……1

第２章　遺跡の立地と環境 ……3

第３章　調査の成果 ……6

第４章　まとめ……12

挿図目次

第１図　調査位置図 ……1
第２図　トレンチ配置および遺跡位置図 …2
第３図　地形分類図 ……4
第４図　周辺の遺跡 ……5
第５図　掘立柱建物　平・断面図 ……6
第６図　遺構配置図 ……7
第７図　北地区　溝状遺構断面図 ……8
第８図　南地区　北壁断面およびSD07断面 …8
第９図　出土遺物実測図(1) ……9
第10図　出土遺物実測図(2)……10
第11図　出土遺物実測図(3)……11

表目次

第１表　試掘調査トレンチの概要 ……1
第２表　遺物観察表(1) ……9
第３表　遺物観察表(2)……11

写真目次

写真１　調査前状況（南から）……17
写真２　北地区　遺構掘削状況（北から）……17
写真３　掘立柱建物（南から）……17
写真４　北地区　溝状遺構（西から）……18
写真５　南地区　北壁断面（南から）……18
写真６　南地区　ＳＤ07掘削状況（南東から）……18

第１章　調査に至る経緯と経過

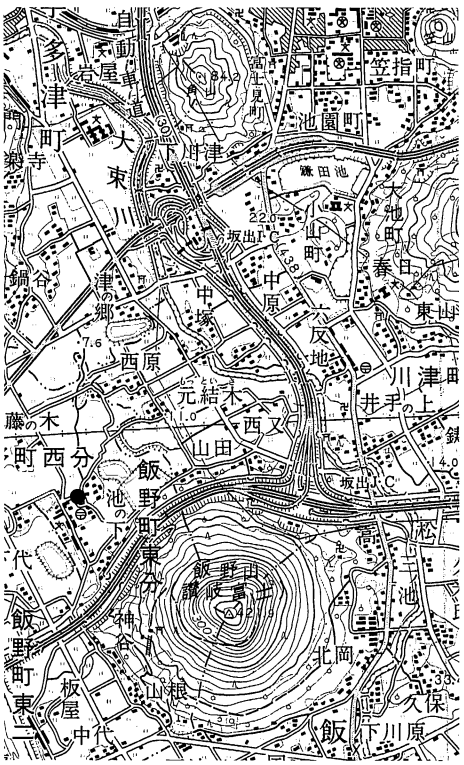
県道飯野宇多津線は、土器川右岸を南北に走る県道岡田丸亀線から丸亀市飯野町板屋付近で分岐し、飯野山西北麓をかすめ北上し、青ノ山東麓のトンネルを抜けて宇多津町に至る延長約６㎞の県道である。このうち青ノ山山麓より南は近世の金比羅参詣道（宇多津道）と重複する。この県道飯野宇多津線の路線うち国道11号線以南については車両の対向が困難な箇所があるなど道路幅員が狭く、混雑緩和と交通安全のために香川県によりバイパス工事を主体とする道路改修が進められている。

この改修事業に対し、香川県教育委員会では「事業対象地内に周知の埋蔵文化財包蔵地は所在しないが、事業範囲が広大なため分布調査を実施する」ことで協力を要請し、平成７年８月に分布調査を行った。この結果、事業対象地内に微高地があり遺跡が所在する可能性が認められたので、県善通寺土木事務所と試掘調査を行うことで協議が整った。

試掘調査は、用地買収の進捗状況にあわせて平成７年８月８日、10月４日及び平成８年４月15日の３回に分けて行った。試掘調査によるトレンチの概要を第１表にまとめる。この結果、第２図に示す275㎡の範囲は文化財保護法に基づく保護措置が必要と判断された。遺跡名は小字から「池ノ下遺跡」とした。その後、善通寺土木事務所との協議の結果、本調査を平成８年度秋に文化行政課が行うこととし、10月７日から21日までの間で実施した。調査は降雨が多く難渋したが、実勤８日間で終了した。

調査の結果、検出遺構が調査対象地外で事業対象地内に延びる可能性が生じたため、工事施工業者の協力により、平成９年11月26日、10年１月13日に工事立会調査を行った。

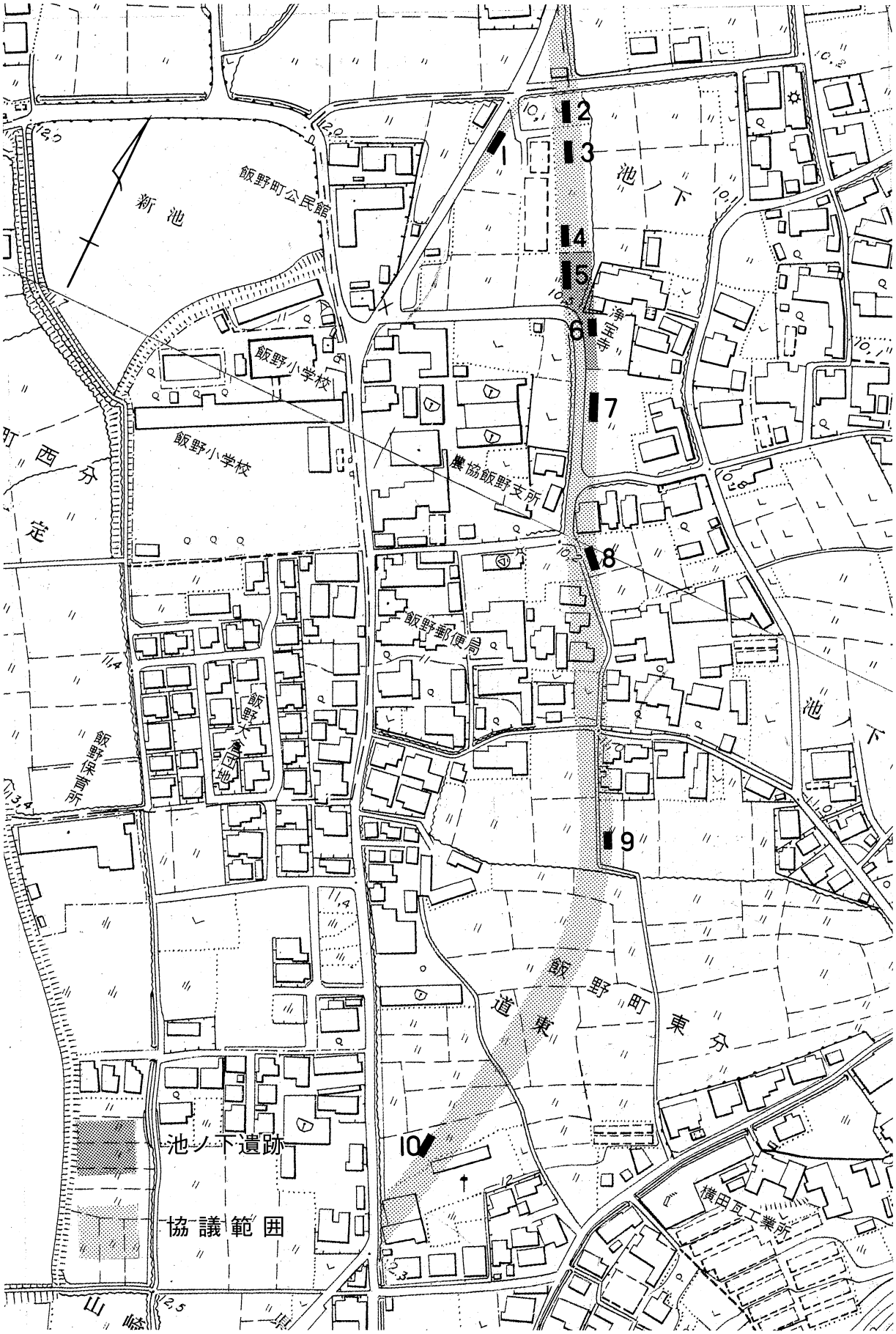
出土遺物の整理作業は、香川県埋蔵文化財センター等で適宜行った。



第１図　調査位置図（1/50,000「丸亀」）

番　号	規模（幅×長ｍ）	遺　構	遺　物	所　　見
１トレンチ	１×９	なし	なし	地表下65cmで礫混じり灰色砂層を検出
２トレンチ	1.5×10	なし	中世土器片少量	地表下20cmで厚さ２cmの包含層（灰色シルト層）を検出
３トレンチ	1.5×９	溝１	中世土器片少量	２トレンチに同じ
４トレンチ	１×12	なし	なし	２トレンチに同じ
５トレンチ	１×13	溝１・ピット２	須恵器・土師器片	地表下35cmで厚さ８cmの包含層（明灰色粘質土層）を検出
６トレンチ	１×５	落ち込み・ピット	中世土器	北端で地山が落ち込む、埋土から中世土器多数出土
７トレンチ	１×７	なし	なし	地表下１ｍまで攪乱されている
８トレンチ	１×８	なし	なし	耕作土直下に地山（橙灰色シルト質土層）
９トレンチ	１×５	なし	なし	８トレンチに同じ。遺構・遺物なし
10トレンチ	1.5×10	なし	なし	８トレンチに同じ。遺構・遺物なし

第１表　試掘調査トレンチの概要



第２図　トレンチ配置および遺跡位置図（縮尺１／2,500）

第2章　立地と環境

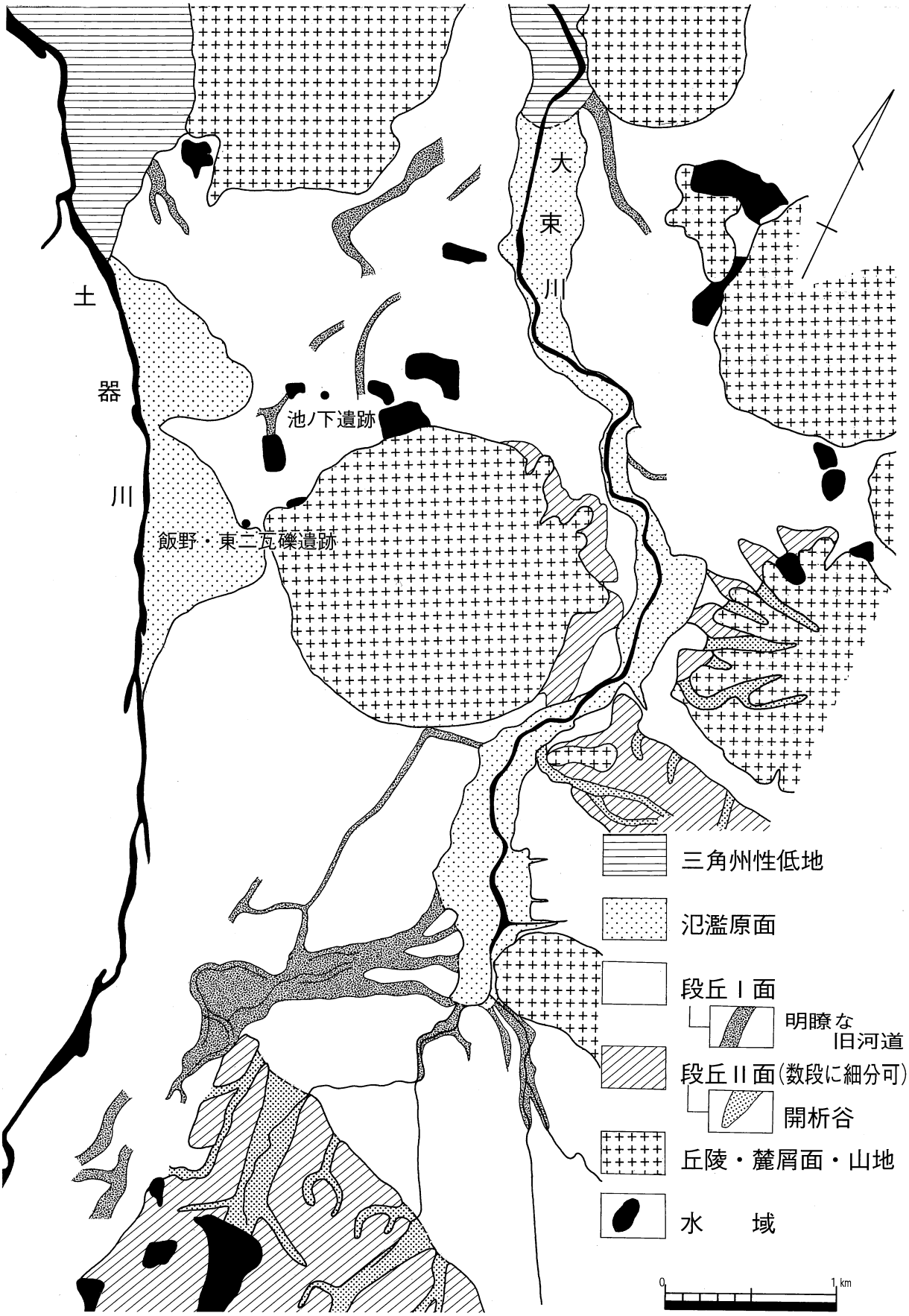
調査地は、ビュートと呼ばれる円錐形の独特の山容の飯野山（標高422m）の北西麓から300mほど離れた、青ノ山と飯野山の間に広がる南北約1.5km程の広さの平野中に位置する。この平野は、西方の土器川と東方の大束川に挟まれているが、等高線の観察や旧河道の方向から土器川がかつて大束川方向に流れていた時代に形成されたことがわかる。土器川、大束川は、現在、この時に形成された地形面を開析しており段丘化している。段丘化した時期は過去に検討したことがあるので繰り返さないが(1)、古代末～中世と推定され、これによって、ただでさえ少雨の瀬戸内式気候に加え灌漑用水の確保が重要な問題となった。現在、この平野西部の主要な灌漑用水は、かなり上流の土器川から取水するもので、段丘崖に沿って流下している。飯野山西麓には、氾濫原面の形成によって段丘面の東西幅が約70mと極めて狭い地点があり、この地点が平野西部の利水を考えるうえで喉元とも言える重要地点となる。四国横断自動車道建設に伴って発掘調査の行われた飯野・東二瓦礫遺跡(2)の東端の調査区がこの地点にあたり、中世と推定される重複する数多くの溝状遺構が検出されている。また、その西には方形区画の溝で囲繞された鎌倉から室町時代にいたる屋敷跡が検出されており、周辺での遺跡のあり方が明確でないので断定はできないが、用水管理もしくは用水権を掌握する位置に所在している可能性が想定できる。

また、山崎新池南側の飯野山南麓に所在する山崎南遺跡は、四国横断自動車道建設に伴って調査がおこなわれ、古墳時代の円筒埴輪片などが出土している。この他、 池ノ下遺跡の周辺およそ500mの範囲における周知の遺跡に、（仮称）藤高池遺跡と柳池遺跡があげられる。（仮称）藤高池遺跡は藤高池東岸において弥生～中世の土器片が採集され、柳池遺跡は柳池の池敷から土器・石鏃が採集されているもので、ともに遺跡の内容は明確でない。また、柳池の西側の水田中に角礫凝灰岩製の宝篋印塔が所在している。

この他、この地域では焼き物に良質な粘土が採集され、青ノ山山麓には6世紀後半の須恵器窯が知られているほか、近世以降現在に至るまで窯場があり瓦、蛸壺などの生産が盛んである。

(1)　拙稿「遺跡の立地と環境」『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　第十六冊　川津二代取遺跡』　1995．3　香川県教育委員会・（財）香川県埋蔵文化財調査センター・日本道路公団
拙稿「条里型地割施工以後の微地形変化－丸亀市飯野町付近の事例－」＜香川地理学会会報＞No.11　1991．6

(2)　山下平重ほか『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　第二十冊　飯野・東二瓦礫遺跡』　1996．3　香川県教育委員会・（財）香川県埋蔵文化財調査センター・日本道路公団



第３図　地形分類図（注(1)文献より引用）

第４図　周辺の遺跡（縮尺１／10,000）

１．池ノ下遺跡　２．飯野・東二瓦礫遺跡　３．山崎南遺跡
４．（仮称）藤高池遺跡　５．柳池遺跡　６．石塔所在地

第３章　調査の成果

１．調査区の設定

調査対象地は二筆の水田で面積は約275㎡である。浄宝寺の西側の水田を北地区、南側の水田を南地区と呼称することとした。

２．基本層序

調査地の標高はT.P.約10ｍで、厚さ約20㎝の水田耕作土直下に基盤層である黄灰色小礫混じりのシルト質土層が現れる。この層の上面で遺構が検出された。なお、試掘調査の10トレンチではこの層の下層でテフラ層を検出している。丸亀平野での検出事例と層相・層序からＡＴ（姶良丹沢火山灰）と推定される。

３．遺構と遺物

①概況

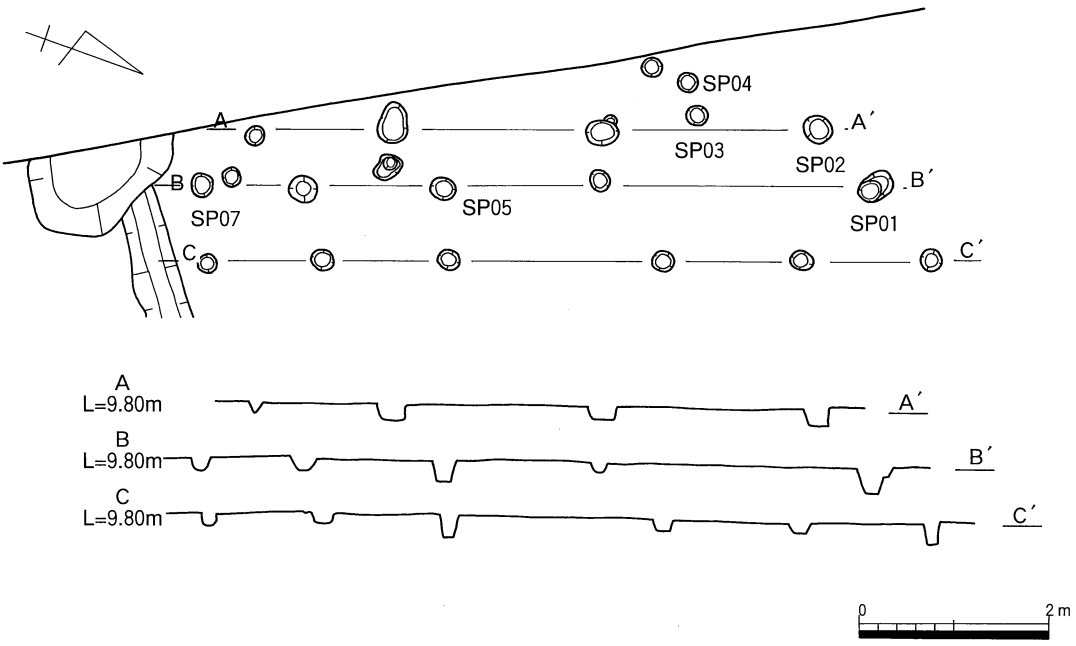
北地区で掘立柱建物１棟のほかピット、土坑、５条の溝状遺構、南地区で土坑と２条の溝状遺構を検出した。このうち北地区の溝状遺構のうちの１条と土坑、南地区の１条の溝状遺構が近世以降のものと推定され、以外は中世のものである。以下に個々の遺構について述べる。

②掘立柱建物跡

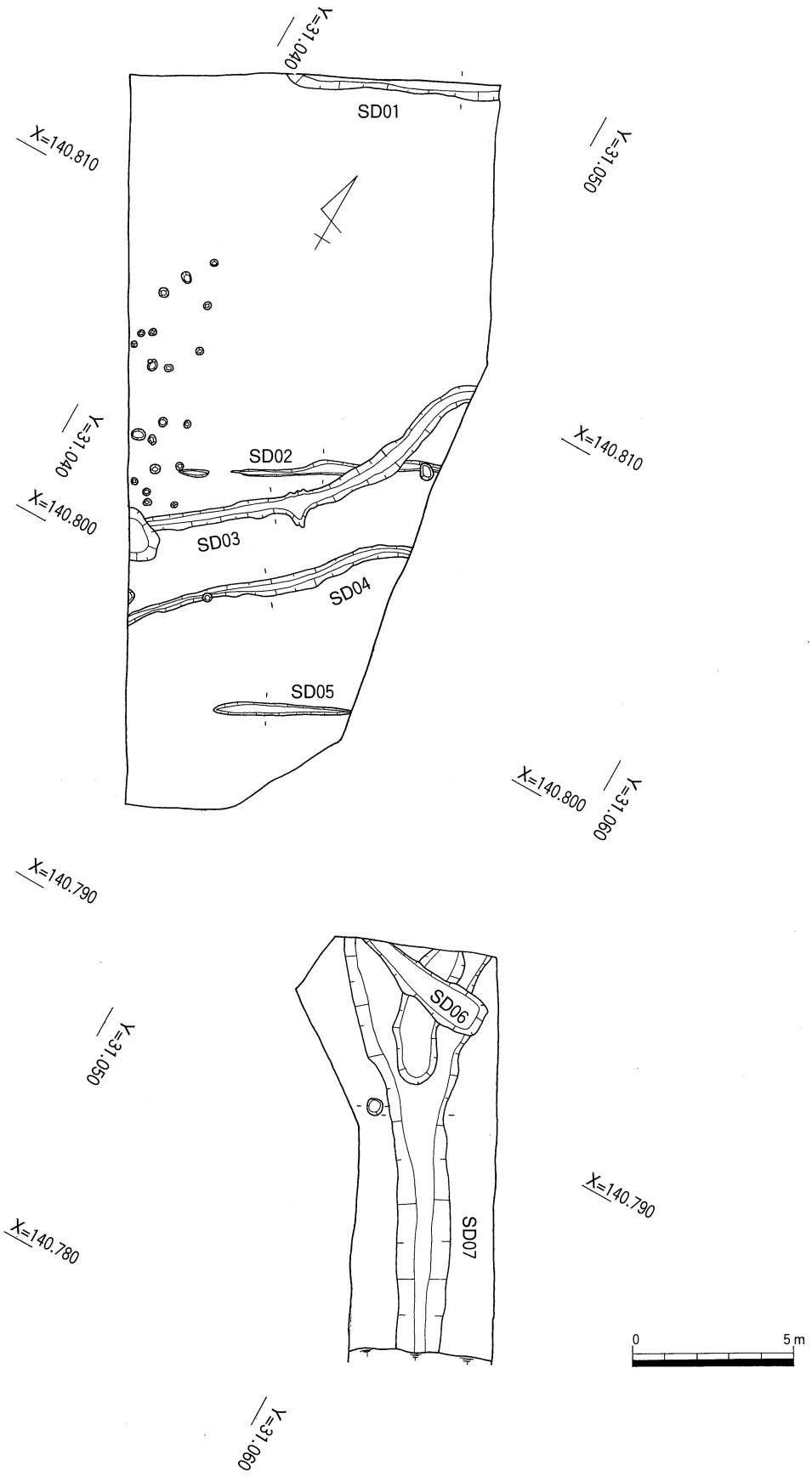
第５図に示すとおり３列の柱穴列があり、桁行7.6ｍ・梁行2.7ｍ以上の建物跡と推定される。西側は調査区外になる。方位は座標北から西へ19°振っている。図化遺物のほかにＳＰ04から土師質土器小皿、ＳＰ01～03から器種不明の土師質土器細片が出土している。

③北地区　溝状遺構

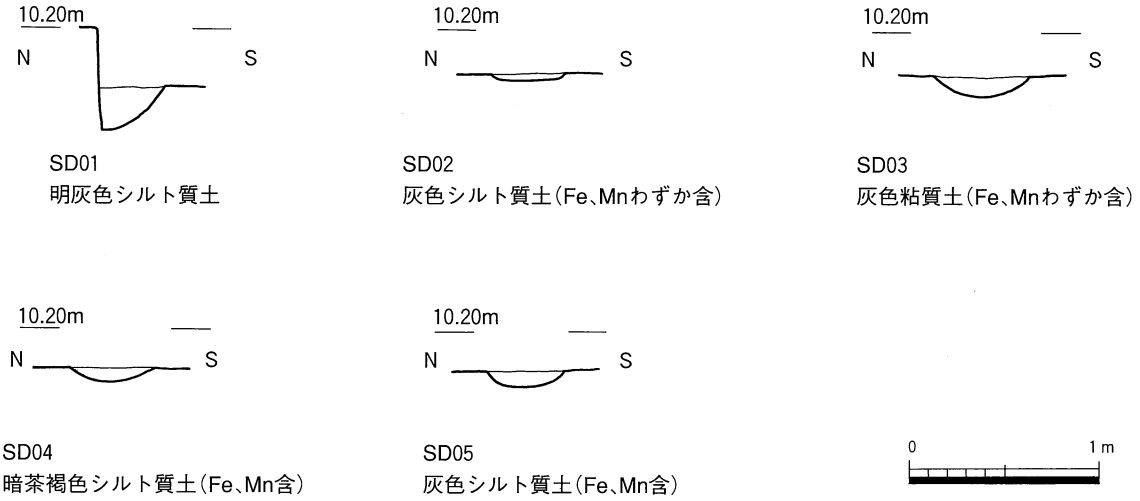
北地区で西南から東北方向へ流れる５条の小規模な溝を検出した。ＳＤ01からは羽釜脚部破片、器種不明の土師質土器細片、ＳＤ02からは器種不明の須恵器細片、ＳＤ05から土師質土器杯の破片が出土している。



第５図　掘立柱建物　平・断面図


Y=31,040
SD01
X=140,810
Y=31,050
Y=31,040
SD02
X=140,810
X=140,800
SD03
SD04
SD05
X=140,800
Y=31,060
X=140,790
Y=31,050
SD06
SD07
X=140,790
X=140,780
Y=31,060
0
5 m

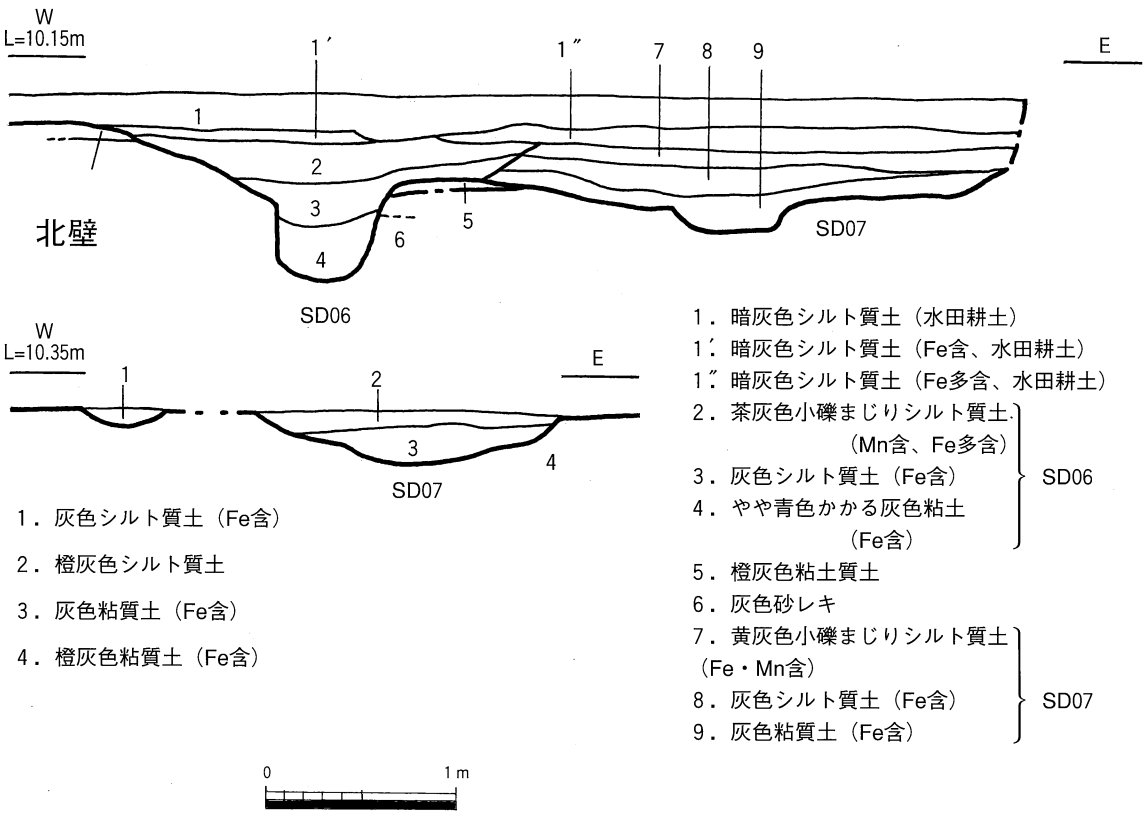
第 6 図　遺構配置図



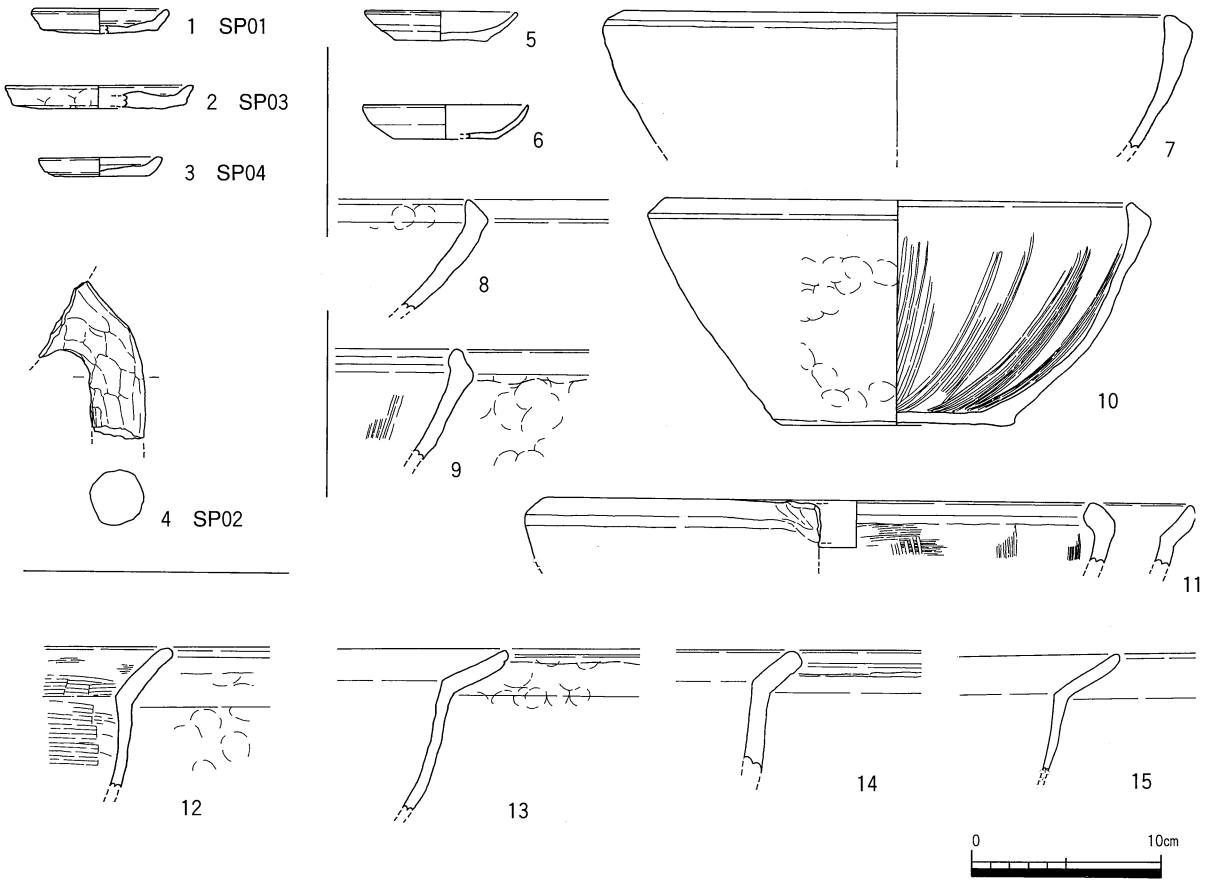
第７図　北地区　溝状遺構断面図

④南地区　溝状遺構

南地区では北から29.5°西に振る方位で流れる幅1.6m、深さ0.3mの断面皿状のＳＤ07とそれを壊す東西方向の幅1.2m、深さ0.7mのＳＤ06を検出した。ＳＤ07からは28ﾘｯﾄﾙ入りコンテナ３箱分の土器片が最下層の灰色粘質土層を中心に出土した。第９図５～15、第10図16～28はＳＤ07出土の遺物実測図であ



第８図　南地区　北壁断面およびSD07断面

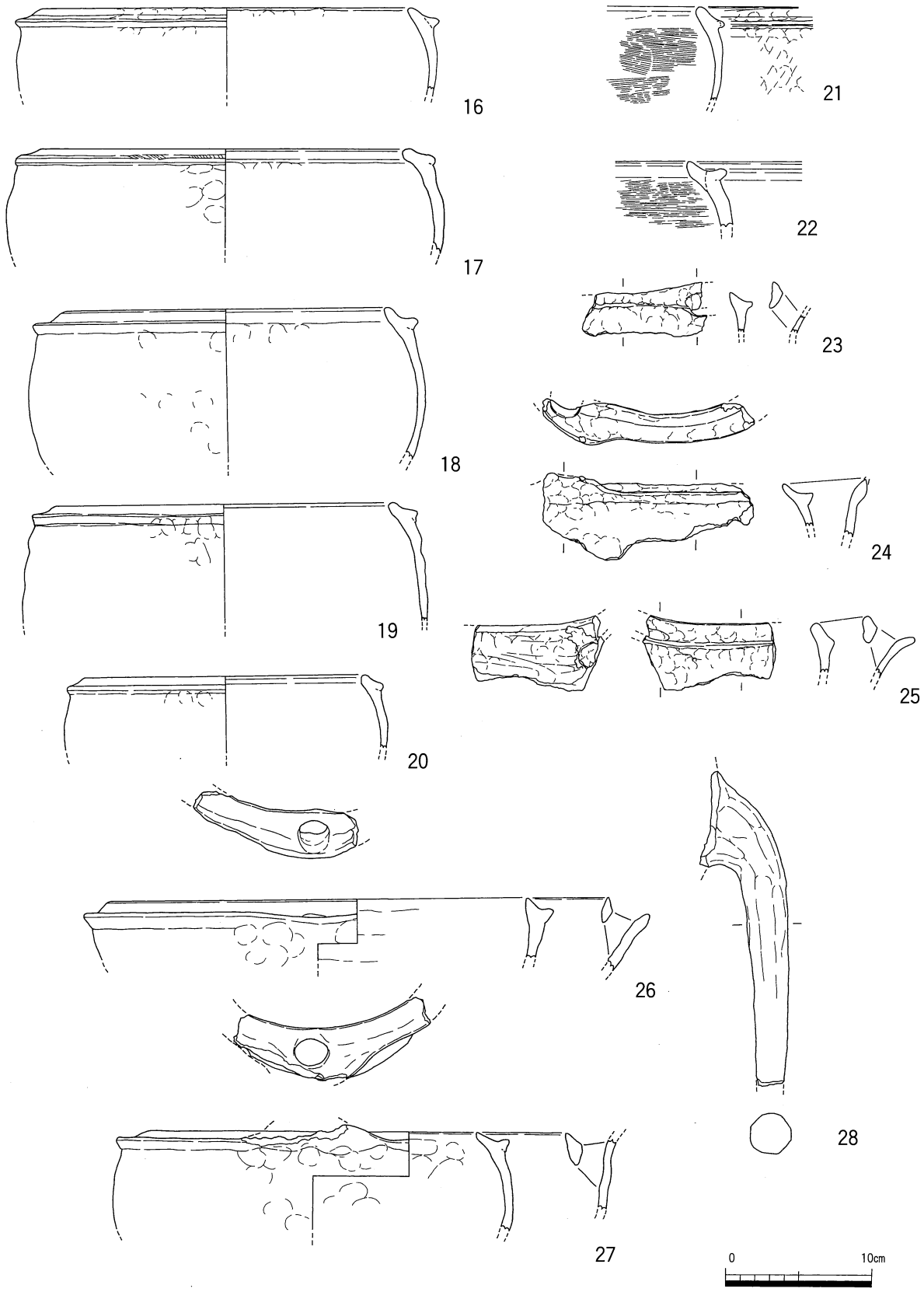


第９図　出土遺物実測図(1)

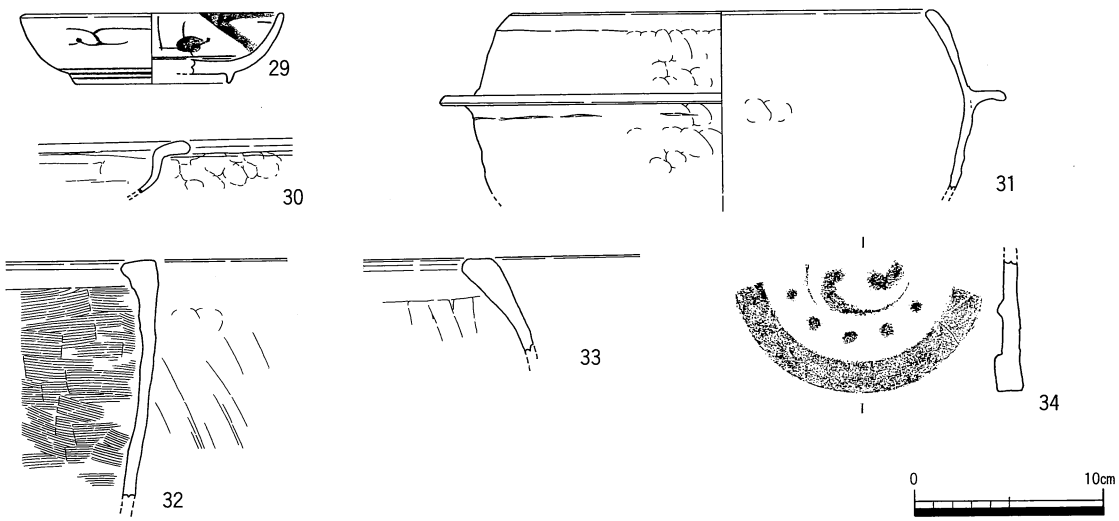
番号	器　　種	口径	底径 器高	胎　　土	色　　調	残存率	出 土 地
1	土師質土器 小皿	7.4	6.2 1.3	0.5mm以下の砂粒わずか含	内外　10YR8/2　灰白	1/2	ＳＰ01埋土
2	土師質土器 小皿	10	9.2 1.2	0.5mm以下の砂粒わずか含	内外　10YR8/2　灰白	底部1/4	ＳＰ03埋土
3	土師質土器 小皿	6.6	5.3 1.0	0.5mm以下の砂粒わずか含	内外　10YR8/2　灰白	完形	ＳＰ04埋土
4	土師質土器羽釜 (脚部)			1.0mm以下の砂粒わずか含	内　5Y6/1　灰 外　2.5Y6/1　黄灰	脚部	ＳＰ02埋土
5	土師質土器小皿	7.9	5.0 1.6	0.5mm以下の砂粒わずか含	内外　10YR8/3　浅黄橙	底部1/4	ＳＤ07
6	土師質土器 小皿	8.7	5.5 1.8	0.5mm以下の砂粒わずか含	内外　10YR8/2　灰白	完形	ＳＤ07
7	土師質土器 鉢	31.2		3.0mm以下の石英など多量	内外　10YR8/3　浅黄橙	口縁1/5	ＳＤ07
8	土師質土器 鉢			2.0mm以下の砂粒含	内　10YR8/4　浅黄橙 外　10YR8/2　灰白	小破片	ＳＤ07
9	土師質土器 擂鉢			2.0mm以下の砂粒多く含	内外　2.5Y8/1　灰白	小破片	ＳＤ07
10	土師質土器 擂鉢	24.5	12.7 12.0	2.0mm以下の砂粒多く含	内　2.5Y4/1　黄灰 外　2.5Y5/1　黄灰	完形	ＳＤ07
11	土師質土器 擂鉢	29.2		0.5mm以下の砂粒含	内外　10YR8/2　灰白	口縁1/8	ＳＤ07
12	土師質土器 土鍋			2.0mm以下の砂粒含	内　10YR8/3　浅黄橙 外　10YR7/4　にぶい黄橙	小破片	ＳＤ07
13	土師質土器 土鍋			2.0mm以下の石英など多量	内　10YR8/3　浅黄橙 外　10YR6/2　灰黄褐	小破片	ＳＤ07
14	土師質土器 土鍋			1.0mm以下の石英など多量	内　7.5YR7/6　橙 外　10YR7/6　明黄褐	小破片	ＳＤ07
15	土師質土器 土鍋			3.0mm以下の石英など多量	内　10YR8/2　灰白 外　10YR8/3　浅黄橙	小破片	ＳＤ07

石英など：石英などの白色粒を包含する。　　砂粒：白色粒、赤色粒を包含する。

第２表　遺物観察表(1)



第10図　出土遺物実測図(2)



第11図　出土遺物実測図(3)

番号	器　　種	口径	底径 器高	胎　　土	色　　調	残存率	備　考
16	土師質土器 羽釜	24.8		3.0mm以下の石英など多量	内　10YR8/3　浅黄橙 外　10YR7/4　にぶい黄橙	口縁1/6	ＳＤ07
17	土師質土器 羽釜	25.2		3.0mm以下の石英など多量	内　2.5YR7/3　淡赤橙 外　10YR8/2　灰白	口縁1/6	ＳＤ07
18	土師質土器 羽釜	22.6		2.0mm以下の石英など多量	内外　10YR8/3　浅黄橙	口縁1/6	ＳＤ07
19	土師質土器 羽釜	22.8		2.0mm以下の石英など含	内外　2.5Y8/2　灰白	口縁1/7	ＳＤ07
20	土師質土器 羽釜	19.2		2.0mm以下の砂粒含	内　10YR6/2　灰黄褐 外　10YR6/3　にぶい黄橙	口縁1/7	ＳＤ07
21	土師質土器 羽釜			2.0mm以下の砂粒含	内外　10YR8/3　浅黄橙	小破片	ＳＤ07
22	土師質土器 羽釜			2.0mm以下の砂粒含	内外　2.5Y8/2　灰白	小破片	ＳＤ07
23	土師質土器 羽釜			3.0mm以下の砂粒多く含	内　2.5Y8/2　灰白 外　7.5YR6/6　橙	小破片	ＳＤ07
24	土師質土器 羽釜			2.0mm以下の石英など多量	内外　2.5Y8/3　浅黄	小破片	ＳＤ07
25	土師質土器 羽釜			1.0mm以下の砂粒含	内　2.5Y8/3　浅黄 外　2.5Y7/2　灰黄	小破片	ＳＤ07
26	土師質土器 羽釜	28.2		2.0mm以下の砂粒含	内　2.5Y8/2　灰白 外　2.5Y6/2　灰黄	口縁1/7	ＳＤ07
27	土師質土器 羽釜	22.4		2.0mm以下の砂粒多く含	内外　10YR7/2　にぶい黄橙	口縁1/6	ＳＤ07
28	土師質土器 羽釜 (脚部)			2.0mm以下の石英など多量	内外　10YR8/2　灰白	脚部	ＳＤ07
29	染付 碗	13.6	8.1 3.8	砂粒含まず	断面　N8/　灰白 染付　5B4/1　暗青灰	口縁1/5	ＳＤ06
30	瓦質土器 焙烙			0.5mm以下の砂粒わずか含	内外　N2/　黒	小破片	ＳＤ06
31	瓦質土器 釜	22.1		0.5mm以下の砂粒含	内外　2.5Y4/1　黄灰	口縁1/6	ＳＤ06
32	土師質土器 甕か火舎			1.0mm以下の砂粒多く含	内　10YR8/3　にぶい黄橙 外　5YR7/6　橙	小破片	ＳＤ06
33	土師質土器 甕			2.0mm以下の砂粒多く含	内　10YR7/2　にぶい黄橙 外　10YR7/3　にぶい黄橙	小破片	ＳＤ06
34	軒丸瓦			0.5mm以下の砂粒含	内外　N2/　黒		ＳＤ06

第３表　遺物観察表(2)

る。羽釜の形骸化した鍔部をもつものや口縁部外面に一対の外耳を有する羽釜（土鍋）が出土している。備前焼などの編年の組立られている資料が共伴していないため、明確な年代観は得られないが中世後半のものと考えられる。なお、ＳＤ07の延長を確認するため調査区北側の浄宝寺敷地および調査区南側での道路工事の際に工事立会をおこなったが、ともに攪乱されていて流路の延長を確認することはできなかった。

４．まとめ

周辺の条里型地割の方向と合致するＳＤ07には、比較的多くの土器片が包含されていた。検出した流路が断片的であることから溝の性格は不明であるが、同一時期と考えられる北地区の掘立柱建物の存在も合わせて、集落遺跡の一部を調査したものと考えられる。今後、道路の開通によって進展するであろう周辺の開発に対して、調査を継続する必要がある。

ふりがな	いけのしたいせき・かわついでのうえいせき
書名	池ノ下遺跡・川津井手の上遺跡
副書名	国道・県道改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	木下晴一
編集機関	香川県教育委員会
所在地	〒760　香川県高松市番町２丁目１－10　ＮＴＴビル　TEL　0878-31-1111
発行年月日	1997年３月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
池ノ下遺跡 （いけのしたいせき）	丸亀市飯野町池ノ下 （まるがめしいいのちょういけのした）	37202		34° 16′ 20″	133° 49′ 20″	平成８年10月７～21日	280㎡	県道改良

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
池ノ下遺跡	集落跡	中世	掘立柱建物・溝状遺構	中世土器	

写真 1
調査前状況（南から）

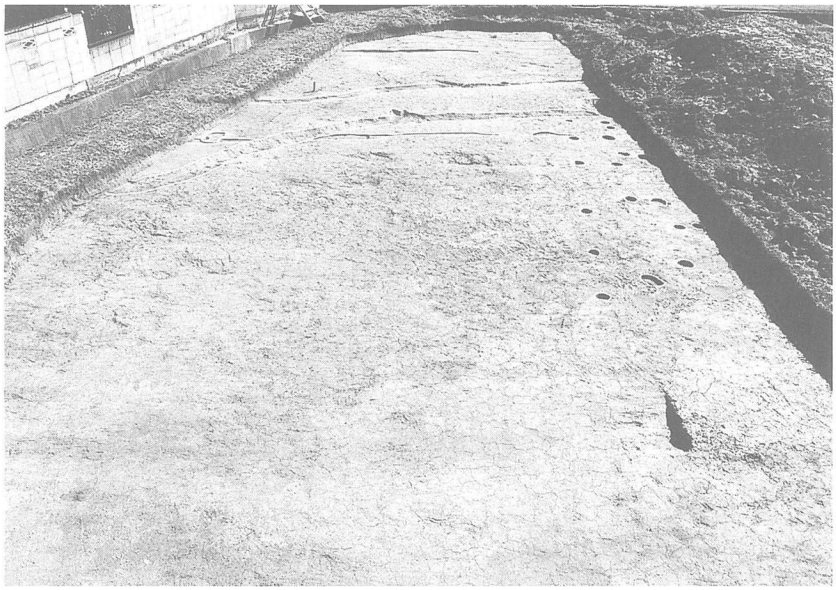


写真 2
北地区完掘状況（北から）

写真 3
掘立柱建物（南から）

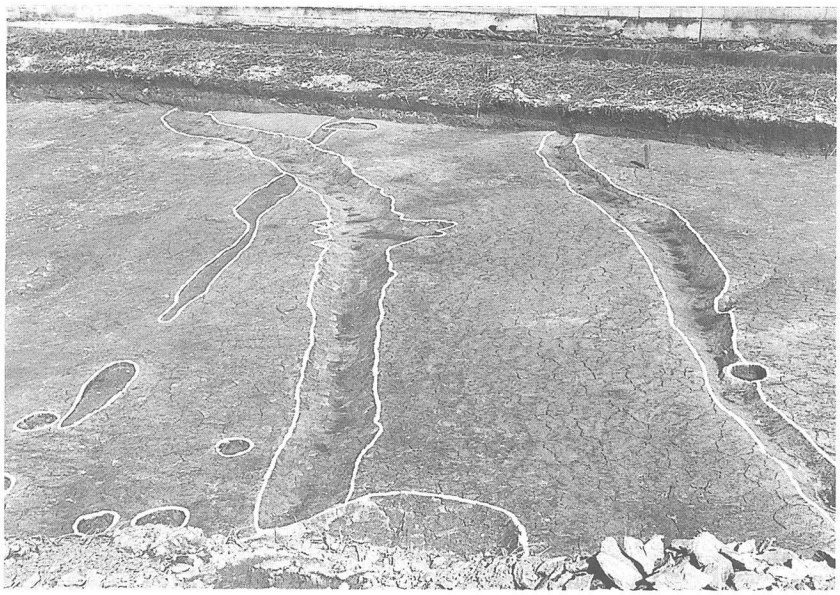


写真 4
北区溝状遺構（西から）

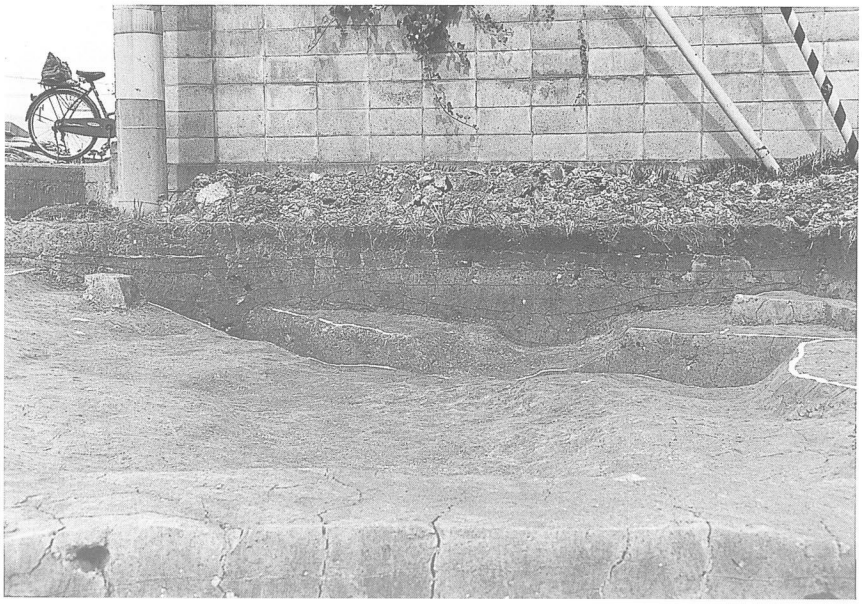


写真 5
南地区北壁断面（南から）

写真 6
南地区SD07掘削状況
（南東から）

川津井手の上遺跡

例　言

1．本書は国道438号線道路改良工事に伴う埋蔵文化財の発掘調査概要報告書である。

2．本遺跡は坂出市川津町に所在する。

3．調査は香川県土木部道路建設課より依頼を受け、香川県教育委員会が実施した。

4．調査は文化行政課文化財専門員木下晴一が担当した。

5．本書挿図中のレベル高はすべて海抜、方位は国土座標第Ⅳ系の北を示す。

6．挿図の一部に建設省国土地理院発行の25,000分の１地形図「丸亀」を使用した。

7．発掘調査、整理作業を通じて香川県坂出土木事務所、（財）香川県埋蔵文化財調査センター、その他関係各位より多大な御協力、御援助を得た。（順不同）

8．本書の執筆、編集は木下が行った。

9．出土遺物は香川県教育委員会が保管し、坂出市府中町南谷5001-4　香川県埋蔵文化財センターに収蔵している。

目　次

第１章　調査に至る経緯と経過 ……1

第２章　調査の成果 ……4

第３章　まとめ ……6

挿図目次

第１図　遺跡の位置および周辺の遺跡 ……1
第２図　試掘トレンチ配置および遺跡位置図 ……2
第３図　遺構配置図 ……2
第４図　土層断面図 ……3
第５図　溝状遺構　断面図 ……4
第６図　出土遺物実測図(1) ……5
第７図　出土遺物実測図(2) ……6

表目次

第１表　遺物観察表(1) ……5
第２表　遺物観察表(2) ……6

写真目次

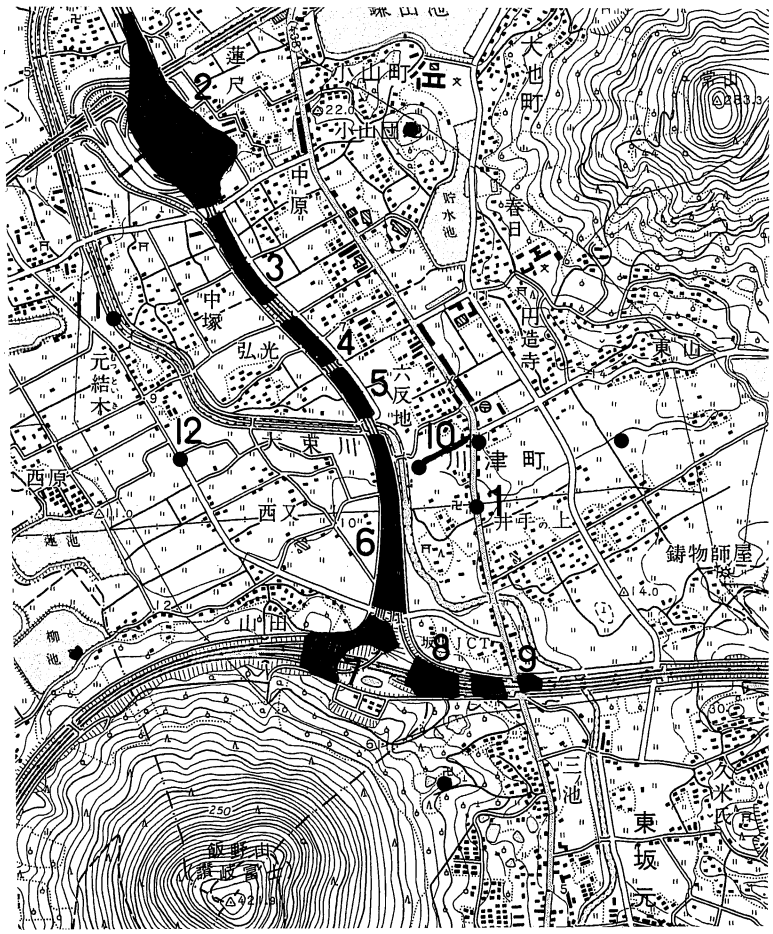
写真１　調査前状況（北から） ……8
写真２　ＳＨ01検出状況（西から） ……8
写真３　ＳＨ01掘削状況（西から） ……8
写真４　作業風景 ……9
写真５　完掘状況（南から） ……9
写真６　北端部掘削状況（北から） ……9

第１章　調査に至る経緯と経過

坂出市内の国道438号線の道路改修工事は、現在の国道の拡幅工事として進められ、用地買収および家屋の立ち退き等の完了した箇所から工事が進められている。香川県教育委員会は用地買収が比較的まとまった箇所について試掘調査等を平成５年度から実施し、「川津川西遺跡」「川津井手の上遺跡」「川津六反地遺跡」などの内容が明らかとなっている。平成８年度は４月９日に第２図に示す範囲で試掘調査を実施した。調査の結果、２、３トレンチにおいて溝状遺構１条、ピット１、不定形の落ち込み１と中世土器細片少量を採集した。しかしながら、遺構の密集度は低く遺存状況も悪いことから、１～５トレンチにかけての協議区間については、文化財保護法に基づく保護措置は不要と判断した(注)。

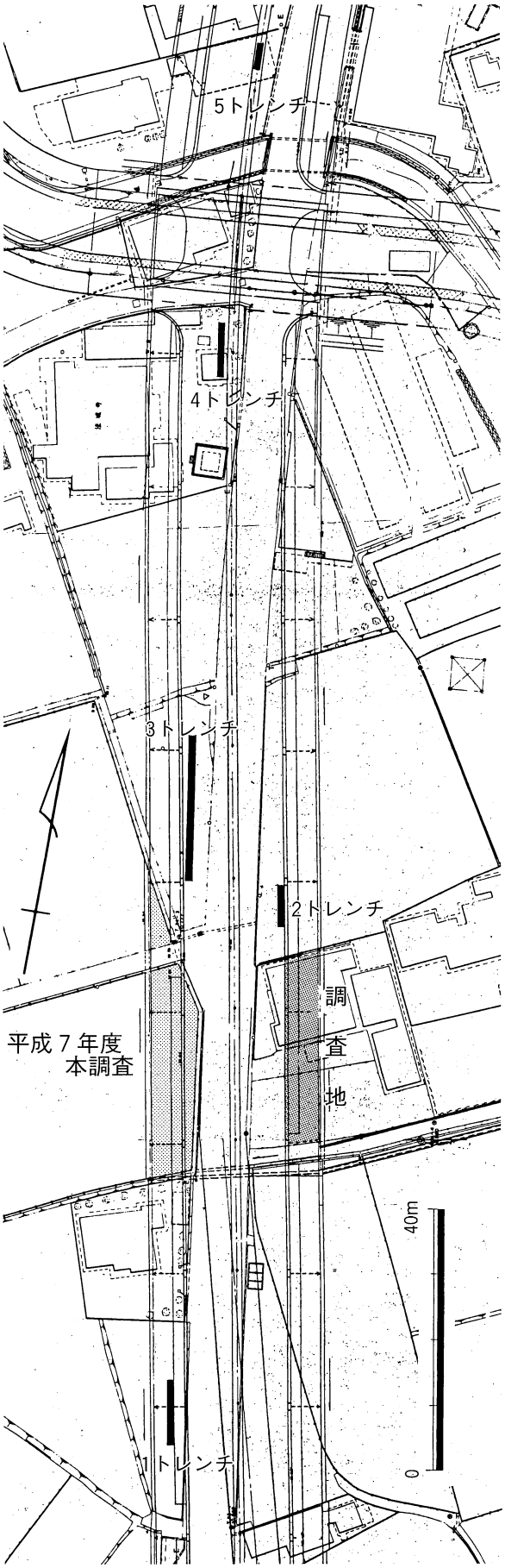
これをうけて坂出土木事務所は道路工事に着手したが、11月下旬に工事箇所から弥生土器片が出土しているという情報が寄せられた。現地を確認したところ４月の試掘調査による２トレンチの南側の家屋立ち退き部分とその南側の地筆において、弥生土器の包含層および溝状遺構の存在することが確認された。工事の進行によって、約10mの拡幅範囲のうち、歩道範囲の幅４m弱の範囲以外は遺構面の下まで掘削が終了している状態であった。検出された遺跡の取扱いについて教育委員会では可能な限り記録保存することとし、坂出土木事務所の協力によって工事工程を調整し、12月２日から６日までの間、悪天候の中で調査を実施した。出土遺物の整理作業は、香川県埋蔵文化財センターで適宜おこなった。

（注）香川県教育委員会『埋蔵文化財試掘調査報告Ｘ　香川県内遺跡発掘調査』1997

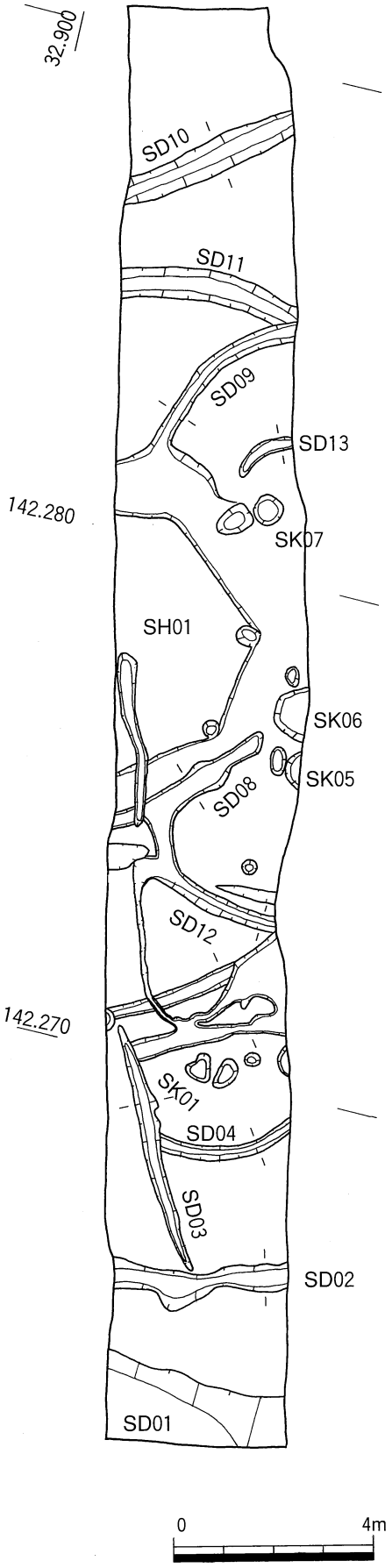


1．川津井手の上遺跡
2．下川津遺跡
3．川津中塚遺跡
4．川津下樋遺跡
5．川津二代取遺跡
6．川津一ノ又遺跡
7．川津東山田遺跡Ⅰ区
8．川津東山田遺跡Ⅱ区
9．川津川西遺跡
10．川津六反地遺跡
11．川津元結木遺跡
12．西又遺跡

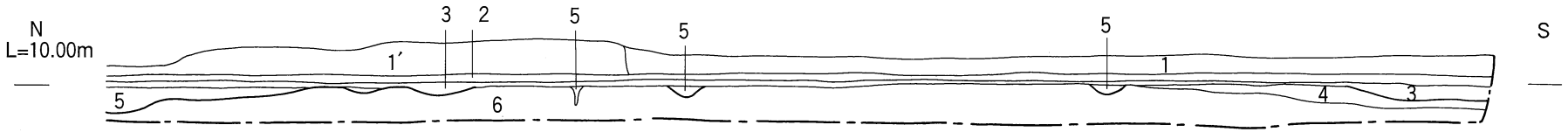
第１図　遺跡の位置および周辺の遺跡（縮尺１／25,000）

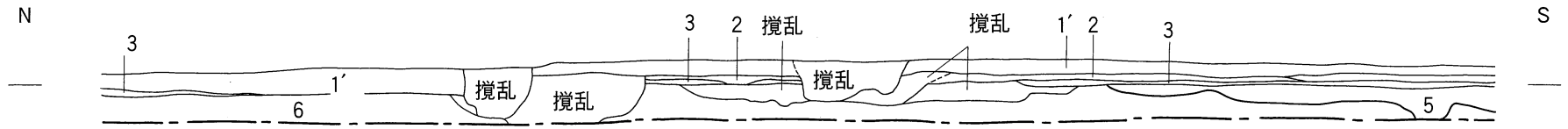


第２図　試掘トレンチ配置および遺跡位置図



第３図　遺構配置図





第４図　土層断面図

調査地西壁

1．暗灰色シルト質土（水田耕土）

1'．瓦礫混じり暗灰色粘質土（攪乱）

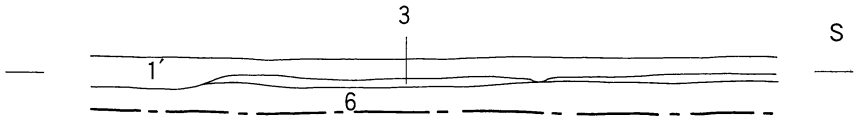
2．明灰色極細砂質土（Fe含）

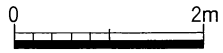
3．灰色シルト質土（Fe、Mnわずか含）

4．灰色シルト質土（Mn含）　SD01

5．暗茶黒色粘質土

6．黄褐色シルト質土（Fe、Mn含）





第２章　調査の成果

(1)　遺跡の位置

遺跡は、巨視的には大束川流域の平野中に、微視的には大束川支流の城山川が形成した緩傾斜の扇状地上に位置している。周辺には多数の遺跡が所在し、県内でも有数の遺跡集中地帯である。改修前の国道をはさんで西側には平成７年度に本調査（150㎡）がおこなわれた川津井手の上遺跡が所在する。ここでは古墳時代終末期から古代初期にかけての合計６棟の掘立柱建物跡が検出されている[注]。

注）森下英治「県道改良に伴う埋蔵文化財調査概報　川津井手の上遺跡」香川県教育委員会　1996

(2)　検出遺構

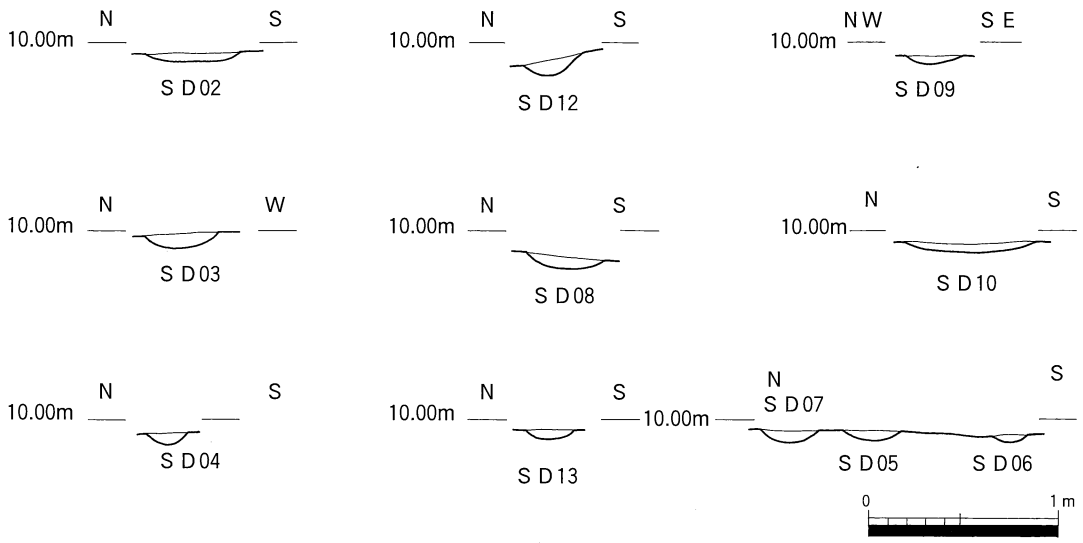
調査対象は幅約４ｍ、延長29ｍの116㎡である。主な検出遺構は、弥生時代後期の竪穴住居跡１棟、溝状遺構11条、古代の溝状遺構２条で、出土遺物は28リットル入りコンテナ１箱分の土器片である。以下に概要を記す。

①竪穴住居跡

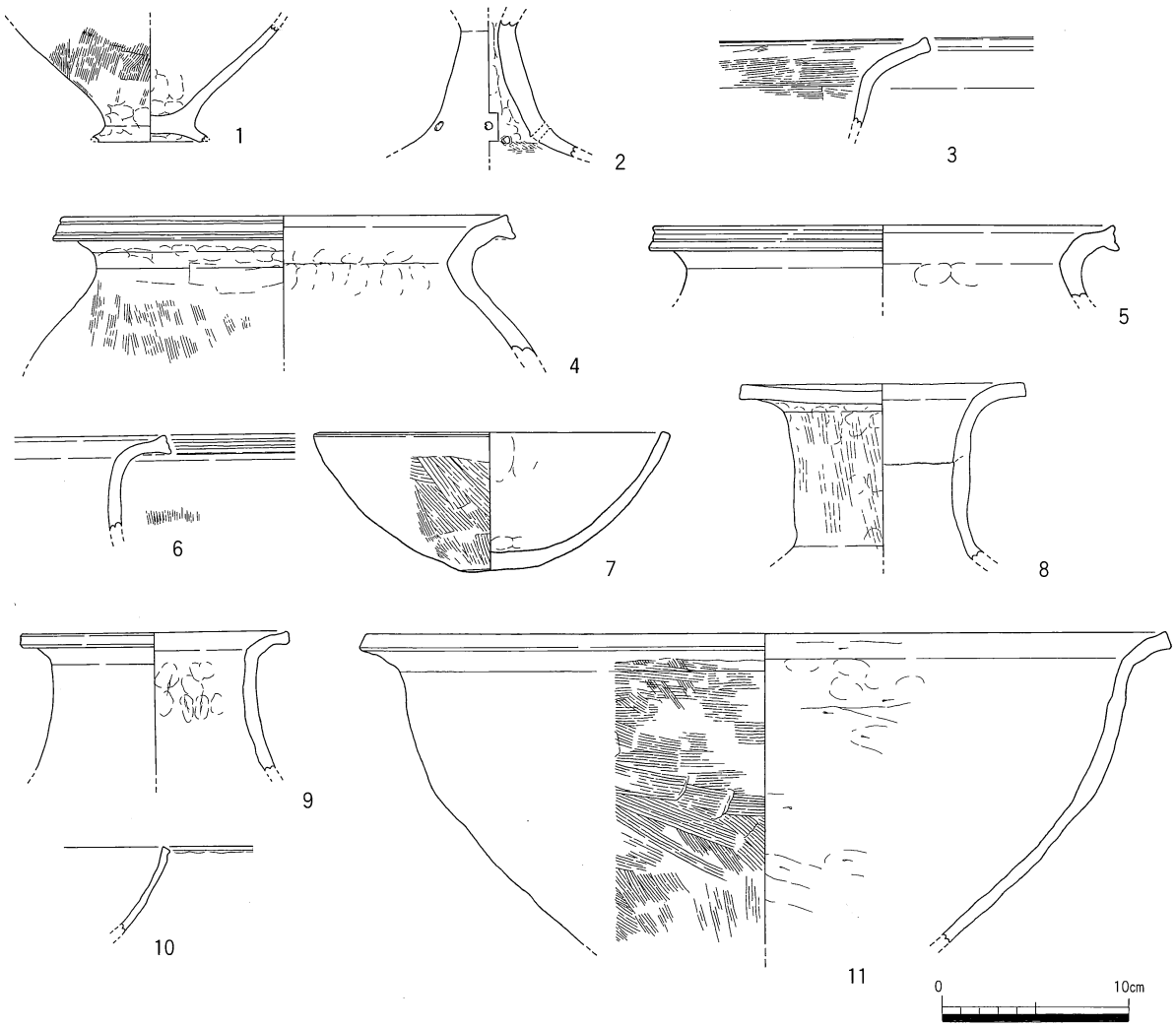
調査区の中央部で検出したもので西側は破壊されている。概ね六角形を呈する凹地があり、頂点３ヶ所のうちの２ヶ所で柱穴を検出した。これがベッド状遺構の内側に相当すると推定する。周囲のＳＤ08やＳＤ09南端部の落ちなどは竪穴住居に関わるものと思われるが、遺存状況が悪くプランを明確にできない。

②溝状遺構・土坑

調査地から多くの溝状遺構および土坑を検出した。溝状遺構は灰色シルト質土で埋まるＳＤ01とＳＤ03が古代もしくはそれ以降のものと推定されるほかは、すべて暗茶黒色粘質土で埋まるもので、弥生時代後期のものと推定される。色調や土質の微妙な違いから判明した切り合いは遺構配置図に示すとおりである。ＳＤ04は平面プランから竪穴住居の壁溝の可能性が考えられるなど、竪穴住居などに関連するものがあると推定されるが詳細は明らかにできなかった。また、土坑としたものには不定形の落ち込み



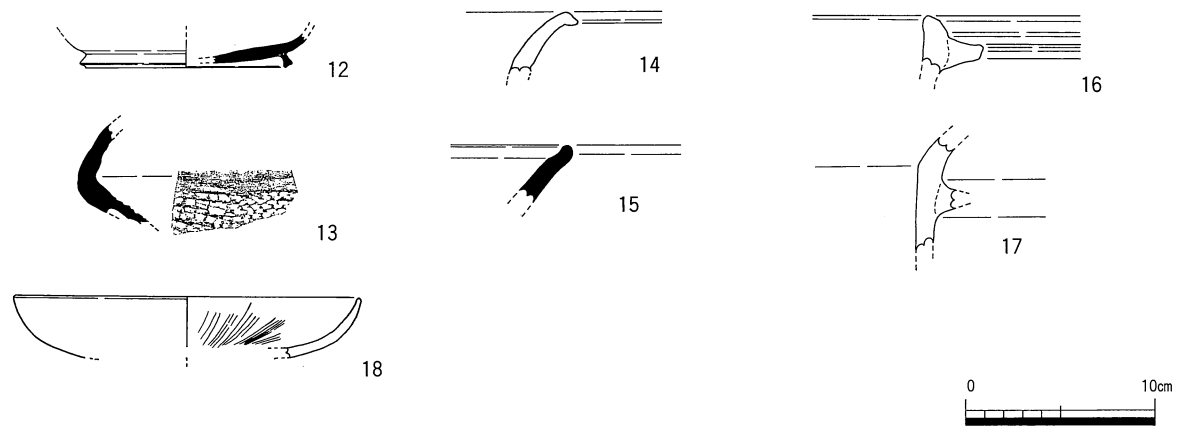
第５図　溝状遺構　断面図



第６図　出土遺物実測図(1)

番号	器　　種	口径	底径 器高	胎　　土	色　　調	残存率	備　考
1	弥生土器　台付鉢			2.0mm以下の砂粒含	内　10YR4/1　褐灰 外　5YR4/6　赤褐	底部1/2	ＳＫ01
2	弥生土器　高杯			1.0mm以下の砂粒多く含	内外　7.5YR6/6　橙		ＳＫ01
3	弥生土器　壺			0.5mm以下の砂粒含	内外　10YR7/4　にぶい黄橙	口縁小片	ＳＤ05
4	弥生土器　甕	23.6		2.0mm以下の砂粒多く含	内外　7.5YR6/4　にぶい橙	口縁1/8	ＳＫ05 5と同一個体
5	弥生土器　甕	24.4		2.0mm以下の砂粒含	内外　7.5YR6/6　橙	口縁1/8	ＳＤ08 4と同一個体
6	弥生土器　壺			1.0mm以下の砂粒わずか含	内　10YR6/3　にぶい黄橙 外　5YR5/6　明赤褐	口縁小片	ＳＫ06
7	弥生土器　鉢	19.1	4.3 7.5	2.0mm以下の砂粒多く含	内　10YR6/4　にぶい黄橙 外　7.5YR6/6　橙	5/8	ＳＫ07
8	弥生土器　壺	14.9		1.0mm以下の砂粒多く含	内外　7.5YR6/6　橙	口縁6/8	ＳＤ11
9	弥生土器　壺	14		1.0mm以下の砂粒多く含	内外　7.5YR5/6　明褐	口縁1/8	ＳＨ01
10	弥生土器　鉢			1.0mm以下の砂粒含	内外　5YR5/6　明赤褐	口縁小片	ＳＫ01
11	弥生土器　鉢	43.2		2.0mm以下の砂粒多く含	内外　5YR5/6　明赤褐	口縁2/8	ＳＨ01

第１表　遺物観察表(1)



第７図　出土遺物実測図(2)

番号	器　　種	口径	底径 器高	胎　　土	色　　調	残存率	備　考
12	須恵器　高台付碗		底径 10.4	0.5mm以下の砂粒わずか含	内外　N8/　灰白	底部1/4	ＳＤ01
13	須恵器　甕			0.5mm以下の砂粒含	内外　N7/　灰白	頸部小片	ＳＤ01
14	須恵器　甕			0.5mm以下の砂粒含	内　2.5Y4/1　灰黄 外　2.5Y4/1　黄灰	口縁小片	ＳＤ01
15	須恵器　鉢			0.5mm以下の砂粒わずか含	内外　N7/　灰白	口縁小片	ＳＤ01
16	土師質土器　羽釜			0.5mm以下の砂粒多く含	内外　2.5Y7/2　灰黄	口縁小片	ＳＤ01
17	土師質土器　羽釜			1.0mm以下の砂粒多く含	内外　10YR6/4　にぶい黄橙	体部小片	ＳＤ01
18	土師質土器　皿	18.1		0.5mm以下の砂粒わずか含	内　5YR6/6　橙 外　7.5YR7/4　にぶい橙	口縁1/8	ＳＤ02

第２表　遺物観察表(2)

もあり、ＳＫ05とＳＤ08の遺物が同一個体であることなどから、溝の深部を土坑としている可能性がある。いずれにしても遺構の遺存状況が悪いため詳細不明である。ＳＤ01は調査地の南端で北岸のみを検出したものである。

第６、７図に出土遺物の実測図を掲げる。弥生時代の遺物は後期の前葉から中葉にかけてのものと思われる。また、ＳＤ01の遺物は上層と下層の遺物を明瞭に分離できなかったためか時期幅をもつものであるが、古代の範疇で捉えることができる。ＳＤ02は埋土から弥生時代の溝と考えられる。18の遺物は混入であろう。

第３章　まとめ

今回の調査は、可能な限り埋蔵文化財の保護措置を図ったが、十分な対応ができなかった感がある。しかし、一方では施工者の坂出土木事務所をはじめ施工業者の理解と協力が得られたことを記しておきたい。遺跡の内容は弥生時代後期の集落が中心となるが、遺跡の集中する当地域において城山川の形成した緩傾斜の扇状地上での遺跡内容が今ひとつ明瞭でなかった。大束川流域では河川の営力による自然堤防などの微高地が集落として選地される傾向があるが、それよりも形成が古いと推定される城山川の扇状地上での遺跡の立地や内容について、今後事例の増加を待って検討を深める必要があろう。

ふりがな	いけのしたいせき・かわついでのうえいせき
書名	池ノ下遺跡・川津井手の上遺跡
副書名	国道・県道改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	木下晴一
編集機関	香川県教育委員会
所在地	〒760　香川県高松市番町２丁目１－10　ＮＴＴビル　TEL　0878-31-1111
発行年月日	1997年３月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
川津井手の上遺跡（かわついでのうえいせき）	坂出市川津町（さかいでしかわつちょう）	37203		34° 16′ 58″	133° 50′ 20″	平成８年12月２～６日	110㎡	国道改良

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
川津井手の上遺跡	集落跡	弥生	竪穴住居・溝状遺構	弥生土器	

写真 1
調査前状況（北から）

写真 2
SH01検出状況（西から）

写真 3
SH01掘削状況（西から）

写真 4
作業風景

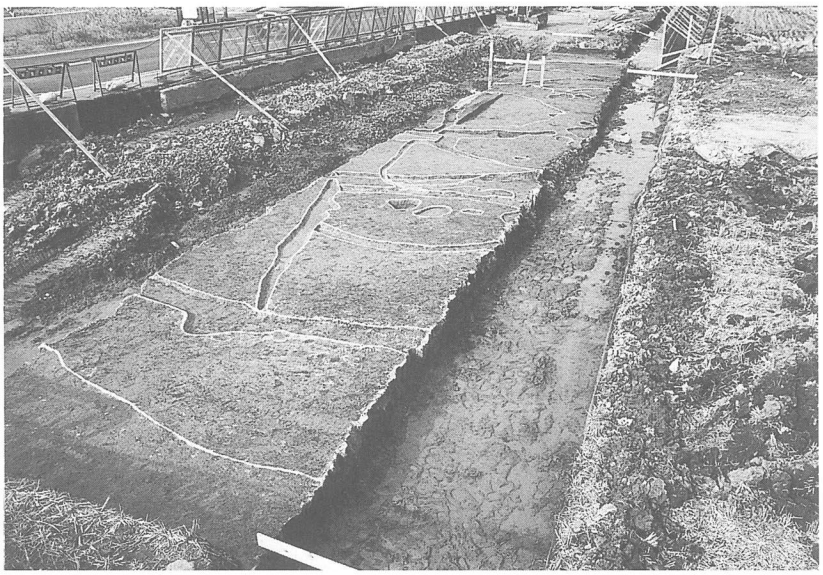


写真 5
完掘状況（南から）

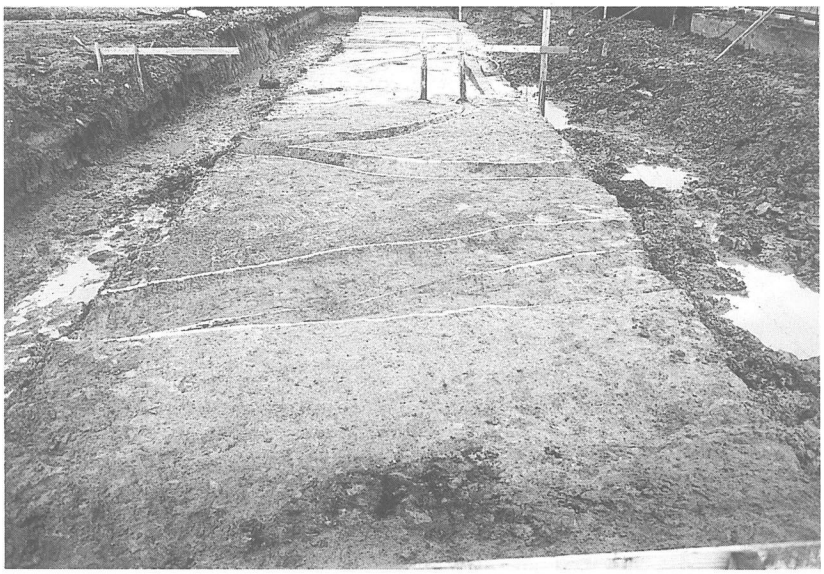


写真 6
北端部掘削状況（北から）

国道・県道改良工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

池ノ下遺跡
川津井手の上遺跡

平成９年３月

編　　集　〒760
香川県高松市番町２丁目１－10 ＮＴＴビル
香川県教育委員会

発　　行　香川県埋蔵文化財研究会

印　　刷　株式会社 中央印刷所

本書は版権者の了承を得て埋蔵文化財研究会で発行したものである。